

第1回

植 物

勉 強

異 分

ベ 強

分

会

野

「植物」でつなげる。「植物」からつながる

2025

3/1土・2日

総合研究大学院大学
葉山キャンパス

参加費

宿泊あり 4,000円

宿泊なし 3,000円

招待講演①

南川 舞 博士 | 千葉大学・国際高等研究基幹・准教授

「ゲノム情報と果実横断面の画像情報を利用した果樹育種の高効率化に向けた取り組み」

招待講演②

福島 健児 博士 | 国立遺伝学研究所・新分野創造センター・准教授

「食虫植物のように絶望的に遺伝学に向かない材料で形質進化の遺伝基盤を探るには」



プログラム

1日目 (2025年3月1日)

2日目 (2025年3月2日)

13:00- 受付
13:30-14:30 招待講演 ①
14:30-15:00 コーヒー休憩
15:00-16:00 招待講演 ②
16:00-16:30 コーヒー休憩+荷物運び入れ
16:30-17:30 ポスターフラッシュ
18:00くらい- 夕食と懇親会

9:00-12:00 ポスターセッション
13:00 解散

招待講演 ①

南川 舞 博士 | 千葉大学・国際高等研究基幹・准教授



「ゲノム情報と果実横断面の画像情報を利用した果樹育種の高効率化に向けた取り組み」

皆さんは果物を毎日召し上がっていますか？農林水産省が決定した食生活指針において、果物は嗜好品ではなく、毎日の食生活にとって必需品であることが位置付けられています。私たちの豊かな食生活を実現するためには、より魅力的で高品質な新品種の育成が求められています。しかし、果樹は交雑育種に長い年月を要するだけでなく、選抜基準を超える個体の獲得率が非常に低いといった問題があります。私たちは、ゲノム情報や果実横断面の画像情報を利用することで、従来の果樹育種を高効率化できる可能性があることを明らかにしました。本勉強会では、カンキツやリンゴなどを対象に取り組んでいる私たちの研究についてご紹介します。

招待講演 ②

福島 健児 博士 | 国立遺伝学研究所・新分野創造センター・准教授



「食虫植物のように絶望的に遺伝学に向かない材料で形質進化の遺伝基盤を探るには」

形質を規定する遺伝子の探索は、現代生物学の様々な場面で必須となる。しかし、太古に生じた革新的な形質は、遺伝学的解析に必要な種内変異が存在しない場合が多く、遺伝的基盤の探索が困難となる。食虫植物もその例にもれず、古典的な遺伝学的解析を用いるのは難しい。本講演では、生物の収斂進化（複数回進化）に着目してこの課題を克服するアプローチについて紹介する。

会場について

総合研究大学院大学（総研大）・葉山キャンパス

■ JR横須賀線逗子駅東口下車

京急バス①番乗り場より逗16系統・逗26系統「湘南国際村センター前」行き、「湘南国際村センター前」下車 乗車時間：約29分

■ 京浜急行逗子線逗子・葉山駅南口下車

京急バス①番乗り場より逗16系統・逗26系統「湘南国際村センター前」行き、「湘南国際村センター前」下車 乗車時間：約25分

■ 京浜急行本線汐入駅下車

京急バス②番乗り場より汐16系統「湘南国際村センター前」行き、「湘南国際村センター前」下車 乗車時間：約30分

■ 横浜駅より高速バス

横浜シティ・エア・ターミナル (YCAT) ⑤番乗り場 葉山・横須賀西地区行き（「電力中央研究所」（平日）、「大楠芦名口」（土休日）行きバス）、「湘南国際村センター前」下車 乗車時間：約45分

葉山キャンパス



■ 第1回 植物異分野勉強会 運営委員（五十音順）

河内 匠（東大）、工藤 葵（京大）、栗田 恵理子（岡山大）、
外山 侑穂（東大）、中村 光希（岡山大）、橋本 舜平（東大）、
八廣 遥斗（東大）

■ 謝 辞

会場の貸し出しを快諾していただいた総研大関係者のみなさまに、
この場をお借りして御礼申し上げます。